

「平和を創り出す人々」(マタイ 5:9)

2022.9.4.

敬和学園高校のぞみ寮夕拝説教

皆さん、こんばんは。今日は敬和学園高校のぞみ寮の夕拝にお招きくださり、ありがとうございます。8月は6日の広島原爆投下の日、9日の長崎原爆投下とソ連が参戦した日、15日の敗戦・太平洋戦争終結の日と毎年太平洋戦争について考えることが多い上に、今年は2月24日からのウクライナでの戦争が半年過ぎても続いており、戦争と平和について考えることが多いこのごろです。

そこで今日はマタイ福音書5章9節の「平和を創り出す人々は幸いである」について皆さんと一緒に考えてみたいと思います。最初に今日の説教のタイトルについてです。最も簡単な聖書研究の方法はいろいろな訳を比較して見ることです。今日の聖書箇所のマタイ5章9節は新共同訳聖書では「平和を実現する人々は幸いである」となっています。協会共同訳では「平和を造る人々は幸いである」と訳しています。新改訳聖書2017年版も「平和をつくる人々は幸いである」と「造る」の漢字を「つくる」とひらがなで表記している点だけが違います。英訳聖書ではしばしば"peace maker"という言葉で訳されています。これは原語のギリシア語を端的に訳している言葉です。私は平和がないところから「平和を創る」という意味を強調して「平和を創り出す人々は幸いである」と訳するのがよいのではないかと考えています。

イエス時代のパレスティナはローマ帝国に支配されていました。当時のローマ帝国は圧倒的な軍事力を背景にして、ローマを中心にして、ヨーロッパから東はインド付近まで、南は北アフリカまで広大な土地を支配し、「ローマの平和」と呼ばれる時代でした。この場合の「平和を創る人々」あるいは「平和を創り出す人々」とは国と国が対立した軍事的な意味での平和ではなく、人々の中の争いや争いを念頭に入れた平和が想定されていると思われます。

この言葉はイエスの最も有名な教えが集まっている「山上の説教」(マタイ5-7章)の冒頭の8つの「幸いである」の中の一つに挙げられています。つまり、イエスについて行こうとする弟子たちに向けて語られたのです。イエスは別の箇所では次のようにも語っています。

そこでイエスは一同を呼び寄せて言われた。「あなたがたも知っているように、異邦人の間では、支配者と見なされている人々が人々を支配し、偉い人々が権力を振っている。しかしあなたがたの間では、そうではない。あなたがたの中で偉くなりたい者は、皆に仕える者となり、いちばん上になりたい者は、すべての人の僕(しもべ)になりなさい。」(マルコ10:42-44)

ここで「異邦人の中で支配者と見なされている人々」とは、支配者のローマの皇帝を指していると思われます。ローマ人の世界では圧倒的な軍事力や政治力を背景にして権力者が力で支配しているが、「あなたがたの間では」すなわち、イエスに従う人々の間では「そうであってはならない」と言っているのです。そして「皆に仕える人」「すべての人の僕」すなわち「すべての人にサービスする人になりなさい」と勧めているのです。トップダウンの力による支配ではなく、話し合いにより皆から信頼されて人々にサービスするボトムアップのリーダーシップが求められているのです。「平和を創り出していく人」は、このようなことを心がけて実践していく人です。

敬和学園高校と敬和学園大学の目指すところは、年齢や性別や能力や障害の有無や国籍や思想や文化などの違いを越えて、一人ひとりの存在価値を大切にして、人権・共生・平和に基づいた新しい価値観や新しい文化を創り出していくことにあります。敬和学園の高校・大学の7年間で一貫した教育を受けて、新しい自分と出会い、より自分らしい生き方を探し求めてみてはいかがでしょうか。皆さんが一生の宝となる学びと人々と出会い、幸いな人生を送られることを心からお祈りいたします。(山田 耕太)